



英霊800余柱の冥福を祈る

戦没者追悼式と慰霊祭が催される



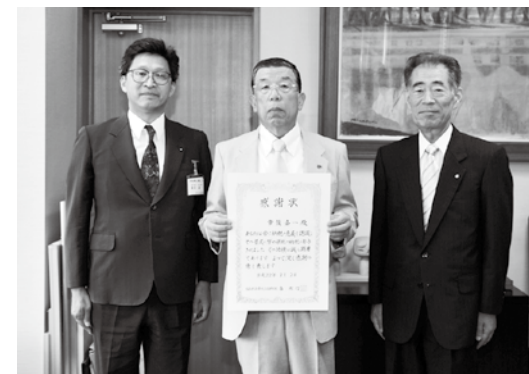
献花台に花を手向ける古川一吉遺族連合会長

町戦没者追悼式は8月6日、町体験交流館学びいにて執り行われました。式には遺族連合会会員や来賓など約200人が出席、国歌斉唱の後、黙とうをささげ、先の大戦で犠牲になった800余柱の冥福を祈りました。津金町長が「尊い犠牲の上に築かれた現在の平和と繁栄を維持し、発展に努めることが英霊の思いに応えること。町民の皆さんが安心して暮らせる町づくりを進めていく」と式辞を述べた後、山口靖明会津保健福祉事務所長、鈴木武喜議長が追悼の言葉を述べました。

追悼式に続き、町遺族連合会主催の慰霊祭が開催されました。

納税への取り組みに感謝状

県会津地方振興局が感謝状を贈呈



左から蓮沼部長、常盤会長、津金町長

納税功労者に対する、会津地方振興局長の感謝状贈呈式は8月2日、町役場で開催されました。贈呈式には、会津地方振興局から蓮沼謙一県税部長らが出席し、常盤嘉一納税貯蓄組合連合会長に感謝状を手渡しました。この感謝状は、納税の意義を認識し、その普及に努め、県税の納税に寄与した功績をたたえるとして常盤会長に贈られたものです。

蓮沼県税部長は、「納税貯蓄組合の皆さんには、いつも期限内納税に努めていただき感謝しています。これからも引き続き納税への理解と協力をお願いしたい」と感謝を述べました。

伝統の精霊送りしめやかに

幸野地区の伝統行事「精霊送り」



提灯を手に集落の中を歩く住民の皆さん

町内幸野地区の伝統行事「精霊送り」は8月16日、同地区で開催されました。お盆に各家庭に帰ってきた先祖の霊を、地区住民みんなで送るこの行事は、幸野地区に古くから伝えられてきたものです。全世帯から、必ず誰かが参加するのが習わしで、神棚に飾ってあったしめ飾りや仏壇に上げた花などを持ち寄り、行列の終点で火にくべて燃やします。

当日は、太鼓を先頭に集落の南側から行列が始まり、終点に着くころには100人を超えていました。終点では、梅花講の御詠歌で先祖の霊を送りました。

長年の協力に感謝を込めて

町内の4事業所に日赤から感謝状



4事業所の代表の皆さんと津金町長(中央)

町内で5年以上献血に協力した事業所への日本赤十字社県支部長感謝状の伝達式は8月25日、町役場で開催されました。

伝達を受けたのは、ヨークベニマル猪苗代店(大塚静夫店長)、リオンドール猪苗代店(佐原章子店長)、東北シール工業(鹿又進代表取締役社長)、猪苗代町振興公社(阿部吉作理事長)の4事業所。21年度末までの献血実績の合計は、延べ1,758人になります。

式では、津金町長が、各事業所の代表者に感謝状を手渡した後、「多忙な中、日ごろから献血にご協力をいただき、ありがとうございます。今後もよろしくお願いします」と感謝を述べました。

4人の女将が猪苗代をPR

野口英世生誕の里 女将の会発足



左から渡部さん、佐賀さん、津金町長、星さん、穴沢さん

町内翁島地区の4つの旅館、ホテルの女将さんが「野口英世生誕の里 女将(おかめ)の会」を結成しました。

メンバーの穴沢恭子さん(住吉館)、星久子さん(たなべの湯)、佐賀まき子さん(さぎの湯)、渡部千賀子さん(ホテルみなとや)は8月25日、町役場を訪れ、津金町長に結成の報告をしました。「女将さんよりおかめのほうが親しみやすいでしょ」と話す4人は「今まで町内には、女将の会のような団体はなかった。わたしたちが、地元の翁島地区をはじめ、猪苗代の魅力をPRし、町を活性化させたい」と抱負を語りました。

ふる里かるたなどを楽しむ

学びいな夏祭りがにぎやかに開催



いなわしろふる里かるたとり大会の様子

町体験交流館の学びいな夏祭りは8月21、22の両日、同館で開催されました。この夏祭りは、同館の生涯学習事業や体験交流協会会員らの活動成果の発表の場であると同時に、町民の交流の場として、毎年開催されています。

会場では、手芸、つるしびな、絵画、紙粘土やトールペイントなど、多くの作品が展示されました。また、絵手紙、勾玉づくり、フラワーアレンジメントやいなわしろふる里かるたなどの体験コーナーでは、大人も子どもも一緒になり、楽しそうに取り組む姿が見られました。